



ウナギとアナゴはどうちがうの

どちらも、同じウナギの仲間

ウナギとアナゴは、大きい仲間分けでは、同じウナギの仲間です。ハモやウミヘビ、ウツボなども、同じ仲間に入り、どれも体の形や、すみ場所が似ているといえます。

ウナギだけが川と海の両方でくらす

同じ仲間の中で、ウナギだけが、川や池、田んぼ、ぬまなど、真水にすんでいます。およそ10年ぐらい真水でくらしたら、秋になると、卵を産むために川を下り、太平洋の南方の深海で産卵します。卵からかえったウナギの子魚は、100～300メートルの深さの海で成長し、やがて、岸近くの海にやってきて変態し、シラスウナギになります。そして、水温が10度ぐらいになると、川を上り、昼は、石がきの間やどろのあなの中などにかくれ、夜、あなを出て、小魚、エビ、カイ、水生こん虫などを食べています。養殖ウナギは、このシラスウナギをとらえて、池で飼育し、大きくしたものです。

ウナギは、一生の間に、真水の川と海の両方で生活するのです。海で育て、卵を産みに川へ上ってくるサケとは、ちょうど逆ですね。

アナゴは一生海でくらす

アナゴは、一生を海でくらしします。身に油が少なく、味のよさでは、ウナギにかないません。しかし、味のよいマアナゴは、料理によく使われます。マアナゴは、卵からかえった子魚のころは、湾になった流れのゆるやかな所で群でくらし、変態して成長するにつれて、海底の方へ移ります。そして、砂底にもぐり、夜になると動き回って、小魚、カニ、エビなどを食べています。（監修・安部 義孝）

